

決算説明資料

(2020年12月期 第2四半期決算)

2020年8月7日

東証2部

オーナンバ株式会社

目次

ONAMBA CO.,LTD.

I. 決算の概要(PL、BS、CF等)

II. 2020年12月期 第2四半期のトピックス

III. 2020年12月期の経営戦略

IV. 2020年12月期の業績予想

〔連結損益〕

(単位:百万円)

科目	2019年第2四半期累計期間		2020年第2四半期累計期間		増減		2020年2月7日 公表の第2四 半期(累計)連結 業績予想
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率	
売上高	17,726	100.0%	15,295	100.0%	△2,431	△13.7%	17,000
売上原価	14,766	83.3%	12,708	83.1%	△2,058	△13.9%	—
販売費・一般管理費	2,665	15.0%	2,362	15.4%	△303	△11.4%	—
営業利益	294	1.7%	224	1.5%	△70	△23.8%	180
営業外収支	△89	△0.5%	78	0.5%	167	—	—
経常利益	205	1.2%	302	2.0%	97	47.2%	180
親会社株主に帰属する 四半期純利益	46	0.3%	61	0.4%	15	33.7%	100

《売上高》

新型コロナウイルス感染症の影響(以下、新型コロナ影響)で国内及び海外の生産拠点で操業停止による稼働損失が発生し、販売と利益に影響がありました。

一方で、新エネルギー分野での新規システム開発、販売促進などの施策を進めましたが、売上高は15,295百万円(前年同期比13.7%減)となりました。

《営業利益》

販売減少による影響を、積極的な原価低減、販管費の削減などのコストダウンにより挽回に努めましたが、営業利益は224百万円(前年同期比23.8%減)となりました。

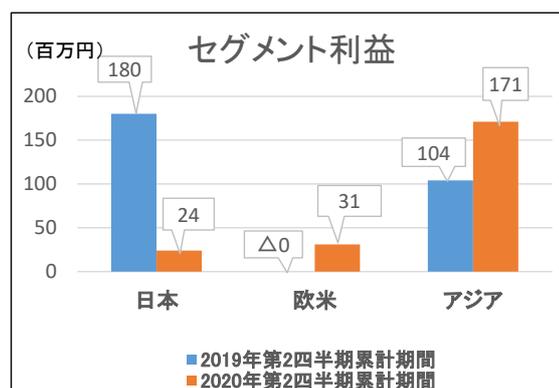
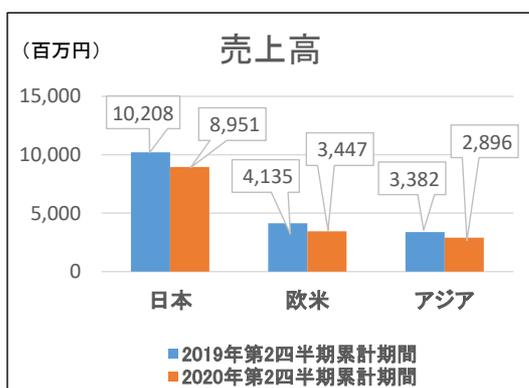
《経常利益、当期純利益》

日本、中国での助成金等の収入増加と、過年度関税等の営業外費用の減少により経常利益は302百万円(前年同期比47.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は61百万円(前年同期比33.7%増)となりました。

3

セグメント情報

ONAMBA CO.,LTD.



《日本》

新型コロナ影響による自動車・産業機器用製品などの売上高の減少がありました。一方で、新エネルギー分野での新規システム開発、販売促進などの施策を進め、売上高は8,951百万円(前年同期比12.3%減)となりました。売上高減少の影響を原価低減活動などで挽回に努めましたが、営業利益は24百万円(前年同期比86.5%減)となりました。

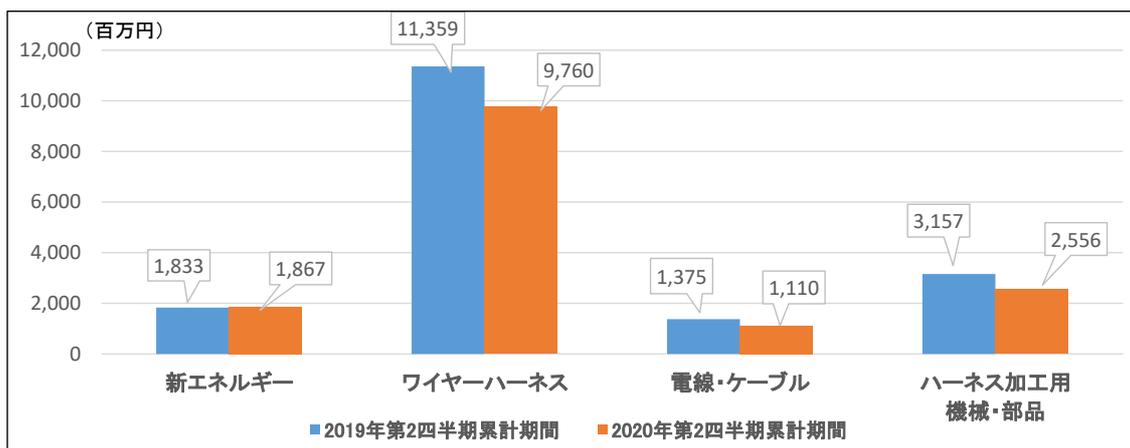
《欧米》

新型コロナ影響でメキシコ工場が操業停止となった影響で、売上高は3,447百万円(前年同期比16.6%減)となりました。従来からの原価低減活動に加え、操業停止に伴う異常な操業度の低下による固定費、並びに操業停止に関連して発生した費用を感染症関連損失(197百万円)として特別損失に計上した結果、営業利益は31百万円(前年同期は0百万円の営業損失)となりました。

《アジア》

新型コロナ影響によりアジアの生産子会社の産業機器用製品などのワイヤーハーネス部門の売上高が減少となり、売上高は2,896百万円(前年同期比14.4%減)となりました。一方で、事業構造改善効果の着実な刈り取りなどにより、営業利益は171百万円(前年同期比63.7%増)となりました。

4



《新エネルギー部門》

太陽光発電関連製品の需要の減少が続いておりますが、新規システム開発、販売促進の結果、前年を上回る売上高1,867百万円(前年同期比34百万円、1.9%増)を確保いたしました。

《ワイヤーハーネス部門》

グローバルでの新型コロナ影響により自動車用、産業機器用など各分野の需要が減少し、売上高9,760百万円(前年同期比1,599百万円、14.1%減)となりました。

《電線・ケーブル部門》

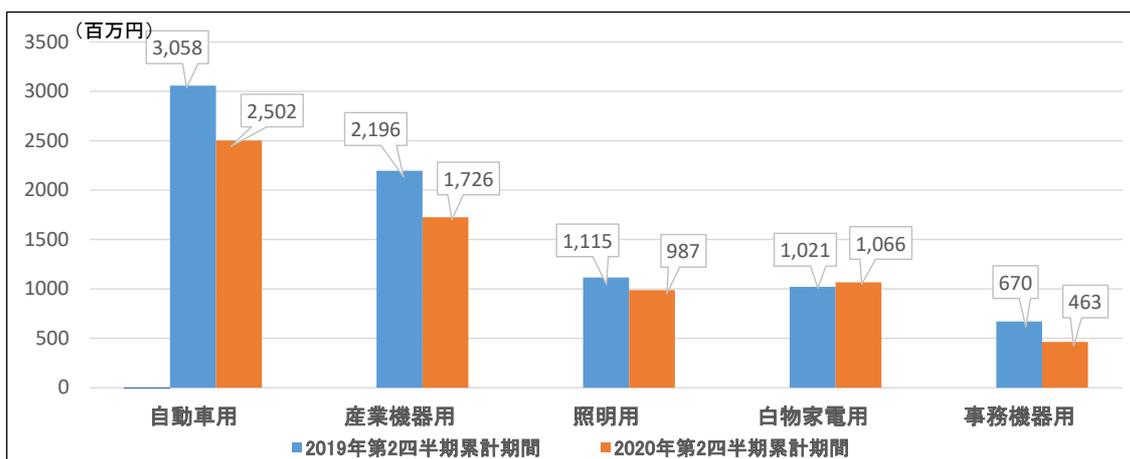
新型コロナ影響による日本国内での産業機器向け電線の需要減少により、売上高は1,110百万円(前年同期比265百万円、19.3%減)となりました。

《ハーネス加工用機械・部品部門》

新型コロナ影響による自動車部品向けの需要が減少し売上高2,556百万円(前年同期比600百万円、19.0%減)となりました。

5

ワイヤーハーネスの主な製品別売上高



《自動車用分野》

新型コロナ影響による北米での操業停止などにより2,502百万円(前年同期比555百万円、18.2%減)となりました。

《産業機器分野》

新型コロナ影響による中国での操業停止や日本での需要低下により1,726百万円(前年同期比469百万円、21.4%減)となりました。

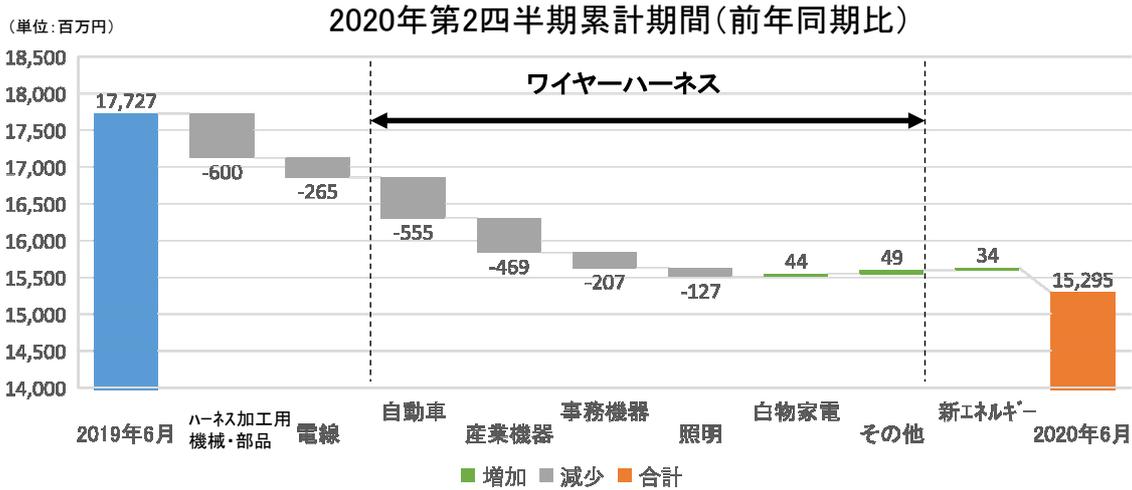
《照明用分野》

北米における顧客の販売不振が継続しており987百万円(前年同期比126百万円、11.4%減)となりました。

《白物家電用分野》

新型コロナ影響はありましたが前年同期並の1,066百万円(前年同期比44百万円、4.4%増)となりました。

6



【主な減少要因】

- 《ハーネス加工用機械・部品》新型コロナ影響による自動車部品向けの需要低下により600百万円(19.0%減)となりました。
- 《電線・ケーブル》新型コロナ影響による日本国内での産業機器向け電線の需要減少により265百万円(19.3%減)となりました。
- 《自動車用》新型コロナ影響による北米での操業停止により555百万円(18.2%減)となりました。
- 《産業機器用》新型コロナ影響による需要低下により469百万円(21.4%減)となりました。

【主な増加要因】

- 《新エネルギー》新規システム開発、販売促進の結果34百万円(1.9%増)となりました。

7

固定資産投資、人員

◆固定資産投資

○有形固定資産取得額 375百万円
(主な投資内訳)

- ・国内子会社のハーネス加工用機械・部品の製造設備等 107百万円
- ・ベトナム子会社のワイヤーハーネス製造設備等 51百万円
- ・中国子会社のハーネス加工用機械・部品の製造設備等 41百万円
- ・中国子会社の新工場建設等 47百万円

○減価償却費 396百万円

◆人員の推移

(人)

2019年12月末	2020年6月末	増減
3,975	3,712	△263

(増減理由)

事業構造改善効果により、アジア及び北米で減少となりました。

(単位:百万円)

科目	2019年12月末		2020年6月末		増減
	金額	構成比	金額	構成比	
流動資産	20,414	71.9%	19,355	71.3%	△1,059
(現金及び預金)	3,749	13.2%	4,551	16.8%	802
(売上債権)	9,632	33.9%	8,094	29.8%	△1,537
(たな卸資産)	6,477	22.8%	6,274	23.1%	△203
固定資産	7,971	28.1%	7,782	28.7%	△188
(有形固定資産)	5,626	19.8%	5,622	20.7%	△3
資産合計	28,385	100.0%	27,137	100.0%	△1,248
負債	12,593	44.4%	11,772	43.4%	△820
(仕入債務)	6,456	22.7%	4,675	17.7%	△1,781
(有利子負債)	3,552	12.5%	4,694	17.3%	1,142
純資産	15,792	55.6%	15,364	56.6%	△427
負債・純資産合計	28,385	100.0%	27,137	100.0%	△1,248
自己資本	15,166	53.4%	14,803	54.5%	△363

《総資産》

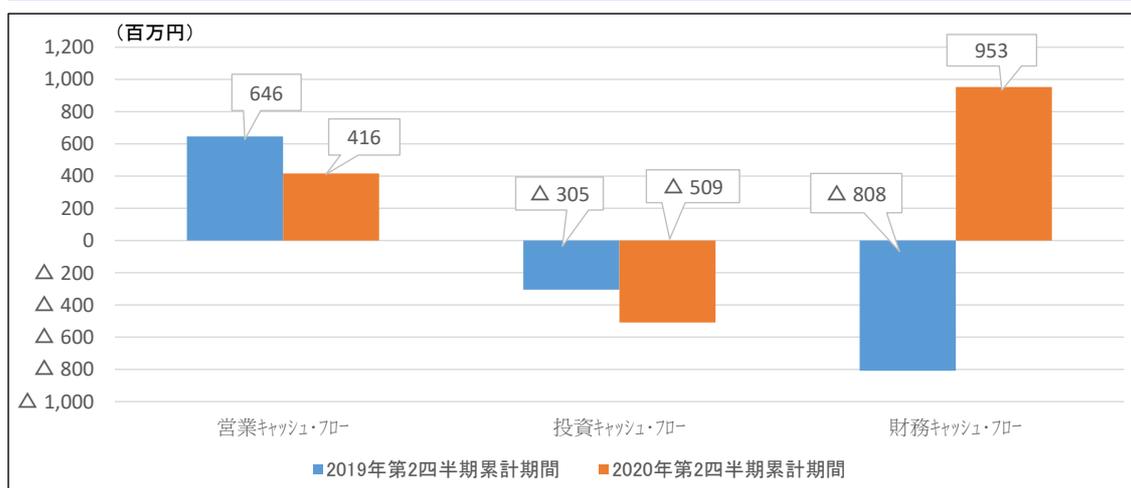
資産合計は、27,137百万円(前期末比1,248百万円減)となりました。主に、現金及び預金802百万円が増加し、受取手形及び売掛金1,537百万円、商品及び製品130百万円及び固定資産188百万円が減少いたしました。

《自己資本比率》

自己資本は14,803百万円となりましたが、総資産の減少により、自己資本比率は53.4%から54.5%(前期末比1.1%増)となりました。

9

キャッシュ・フローの状況



《営業活動によるキャッシュ・フロー》

営業活動によるキャッシュ・フローは、416百万円の収入となりました。主に、税金等調整前四半期純利益103百万円、減価償却費396百万円、売上債権の減少1,468百万円、たな卸資産の減少92百万円及び仕入債務の減少1,732百万円によるものであります。

《投資活動によるキャッシュ・フロー》

投資活動によるキャッシュ・フローは、509百万円の支出となりました。主に、有形固定資産の取得による支出375百万円によるものであります。

《財務活動によるキャッシュ・フロー》

財務活動によるキャッシュ・フローは、953百万円の収入となりました。主に、短期借入金の調達(純額)720百万円、長期借入金の調達による収入600百万円及び長期借入金の返済による支出212百万円によるものであります。

1. 新製品開発・開拓の推進

<新エネルギー関連>

- ・空調機器の自動制御により電力量を削減する新E & Eソリューションシステムを納入

<ワイヤーハーネス関連>

- ・重点分野(自動車/ロボット/環境エネルギー関連)での新規受注
 - 自動車メーカー向け大型ロボット制御ボックス用ワイヤーハーネス
 - 住宅向け大容量コンパクト蓄電池用ワイヤーハーネス

<電線関連>

- ・菌の増殖を防ぐ、医療・介護・食品機器配線に最適な抗菌ケーブル上市

2. ものづくり改革の推進

- ・生産性高位平準化に向けたグローバルものづくり指標管理の運用開始
- ・車載用新型VTC自動化ラインでの量産開始

3. 経営基盤見直し強化

- ・アジア地区各社における新規基幹システムの本格的な運用実施
- ・年功制から成果主義への移行により活性化を図る新人事評価制度の運用開始

11

1. 新製品開発・マーケット開拓の促進

- ・環境エネルギー／自動車／産業機器／ライフサイエンス／システム分野での深堀りによる事業拡大
- ・成長分野テーマの開拓と促進

2. ものづくり改革の推進

- ・ものづくり力向上活動の推進
- ・生産性10%アップ活動の推進

3. 業務基盤の見直し強化

- ・基幹システム運用効率の向上
- ・新人事評価制度の運用開始

12

1. 連結業績予想数値

(単位:百万円)

	2020年第2四半期 累計期間(実績)	年間見通し
売上高	15,295	未定
営業利益	224	未定
経常利益	302	未定
親会社株主に帰属 する当期純利益	61	未定

2. 配当金の状況

	第2四半期末	期 末	合 計
2019年(実績)	5円00銭	6円00銭	11円00銭
2020年(予想)	5円00銭	未定	未定

13

本資料の将来予想に関する記述は、経済情勢や社会情勢の変化により、実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。

14